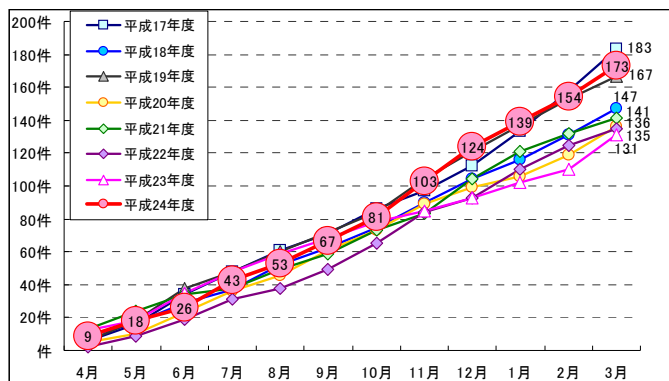


## 平成24年度工事事故発生件数が過去2番目を記録!

(※H6年度以降のデータより)

### ～平成24年度の事故発生件数、および3月の事故発生状況について～



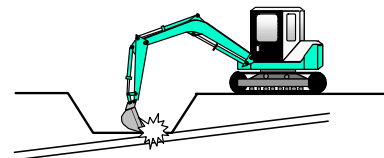
- 平成24年度の全事故件数は170件で、過去最多の平成17年度(183件)に次ぐ件数です。

(※ H24 事故件数は 5 月 28 日時点で確認されている件数)

- 3月期には、とりわけ事故防止重点対策項目とされている地下埋設物件の損傷(1件)、架空線の切断(2件)、高所からの墜落(2件)が多発しました。特に、地下埋設物件の事故原因については「管理者との立会をしていなかった」「埋設物周辺は人力掘削(試掘)する計画にも関わらずBHで掘削した」といった初歩的な確認を怠ったことが原因で起きています。

また架空線の事故

は、上記2件ともが「BHの移動の際にアームを上げたままにしていたため架空線を引っ掛けた」事故でした。架空線付近での重機作業では「重機オペへの架空線の存在の周知」「架空線を視認できるように注意標識旗等を取り付ける」といった対策を徹底する必要があります。



## 墜落事故が立て続けに3件発生!

- 3月から4月にかけて墜落事故が3件発生しており、いずれも作業員が骨折するなど重傷となっています。以下、事故の概要を示しますが、高所での作業では「足場・手すり」を設置すること。やむをえず親綱による作業とする場合には安全帯のフックをむやみに外さないように作業員への教育の徹底をお願いします。



## ボックスカルバートの透水マット設置作業中にハシゴから転落

### ■事故概要■

ボックスカルバートの側面にハシゴを掛けて、コンクリート壁面に透水マットの設置を行い、降りようとした際に高さ3mの位置から転落した。ボックスカルバートの足場は解体されており、ハシゴの下部を作業員が手で押さえて作業を行っていた。

### ■被害の程度■

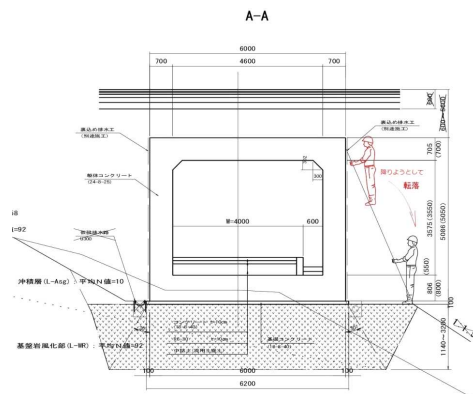
作業員(52才) 両手首骨折 全治3ヶ月、休業30日

### ■事故の原因■

透水マットが設置数量増により納入時期が遅れたため、本体足場解体後に設置作業を行う必要が生じた。変更した作業手順はハシゴを使った施工となっており、安全性に問題があった。

### ■再発防止策■

- ①高所作業は高所作業車、又は足場等を設置して行う。



## 型枠組立作業中、強風にあおられ 作業員が型枠ごと転落

### ■ 事故概要 ■

二次製品ブロック積み天端コンクリート型枠の仮建込みとして、ブロック積み背面より型枠パネルを固定する作業を行っていたが、強風にあおられ型枠ごとブロック前面側3m下の地面に墜落した。

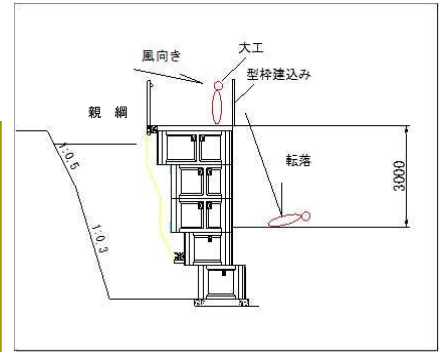
親綱は設置されていたが、作業員は移動のため安全帯のフックを外していた。

またブロック前面の足場は設置されていなかった。

(型枠本組立時に設置予定だった)

### ■ 被害の程度 ■

作業員(35才) 骨盤骨折 全治6週間



### ■ 事故の原因 ■

ブロック前面の足場を設置せず、親綱安全帯で作業を行ったことに加え、親綱から安全帯を外していたことによる事故である。

### ■ 再発防止策 ■

- ① ブロック前面に足場を設置する。
- ② 安全指導強化のため専属安全指導員を配置し、再発防止教育を実施する。

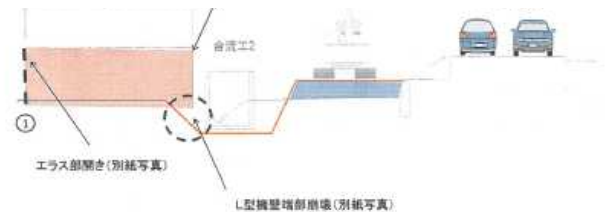
## 床堀作業で、民地側擁壁が傾く

### ■ 事故概要 ■

現道の拡幅工事で、沿道のガソリンスタンド(建設中)の擁壁に近接して大型柵を設置するため床堀を行ったが、土留めをせずに掘削したため影響線が擁壁底板にかかってしまい擁壁が傾いた。

### ■ 被害の程度 ■

L型擁壁(H=3m、L=9m)が1ブロック沈下



床堀ラインが既設擁壁に影響



擁壁が傾いたことによる目地のすき間

### ■ 事故の原因 ■

民地側構造物との近接施工にも関わらず、土留めをしていなかった。

### ■ 再発防止策(案) ■

- ① 土留めを行い施工する

## 事故隠し2件が発覚!

◎管内において、1月と3月に事故隠しが報告されています。

1件は、下請作業員の怪我を元請の代理人は知りながら、会社に報告しておらず後日会社が事故の事実を確認して報告されたもの。もう1件は下請作業員が作業中に道路施設を損傷したにも関わらず放置し、後日他工事にて損傷を発見、報告されたものです。

整備局発注の請負工事において事故が発生した場合は発注者へ速やかに報告することが義務づけられており、怠った場合は**契約上の違反行為**となります。

**事故が発生したときは速やかに報告をお願いします!**